『夕焼け』の群読

音読練習と個人台本作成

音読練習では、群読につなげるために、まず個々の読みを確実なものにしたいと考えました。そのために、着席したままの微音読を1回、起立しての音読を3回行うよう指示しました。しっかりとした発音により、朗読することへの自信をもたせ、読み慣れることを目的としました。机間指導により、姿勢や発声などについて個別にアドバイスをしていきました。

内容理解では、音読練習が終わった時点で、語句の意味を簡単に解説しました。その後、いくつかの発問をし、内容の理解を図りました。

大きく分かれるところはどこか。また、どうしてか。

話し手は誰か。

この2つについて、全体で話し合いました。情景をある程度つかみ、登場人物を確認することがねらいでした。また、話し手の視点の移動と背景にも気づかせたいと考えました。

個人台本作成では、教科書本文の初めの9行を使い、読み分かれ、読み担いをするとしたらどうなるかを全体で話し合いました。ここでは、教師主導で1行ごとに誰が読むのがふさわしいのかを検討させました。内容に応じてどのように読み分けるか、どのようにして人物を担わせるか、割り当てをさせました。同時に、群で読んだらいいと思われる部分も検討させました。その後、一度生徒に実際に読ませてみました。大いに賞賛し、意欲づけを図りました。

以上の要領により、台本を個人で作ることを指示しました。さらに、ワークシートの最後にある質問について自分の考えを書くことも指示しました。質問は以下の内容です。この質問を各自の考えを深めるきっかけにしようと意図しました。

娘は、なぜ3回目に席を立たなかったのか。

自己評価カードの工夫

自己評価カードでは、作品を読めるようになったかと個人台本を作ることができたかを確認できるようにしました。また、詩に対する好感度や作品を読んだ感想も記述式で書けるようにしました。

詩の中で一番好きになった。それは、その辺にある日常生活の中で心打たれる部分をしみじみと書いてあるからである。

こういうことはよくあることだと思った。読んでいるとせつなくなってくる詩だ。